

内航船の実務等の解説を通じて各校の指導を支援

～海技教育機構各校の教員を対象とした内航海運に関する勉強会の模様～

日本船主協会は、2008年7月に「人材確保タスクフォース（TF）」を設置し、優秀な日本人船員（海技者）確保のための広報活動を行っている。

優秀な日本人海技者の確保にあたっては、船員教育機関の先生方に業界の現状や実務に関する理解を深めてもらい、学生の指導に活かしてもらうことが重要であることから、海技教育機構各校の先生方を対象に内航海運に関する勉強会を開催した。



Web会議システムを利用した勉強会の様子

この「勉強会」は、人材確保 TF で内航分野の案件に対応する「内航ワーキンググループ（WG）」のメンバーが中心となって、内航業界に多くの新人船員を送り出している海技教育機構傘下の海上技術学校（小樽・館山・唐津・口之津）、海上技術短大（宮古・清水・波方）及び海技大学の先生方に、内航海運の現状や運航及び荷役の実務等についてレクチャーし、それを学生指導に役立ててもらうことを主な狙いとしたもので、今回が4回目の開催。

今回は、2015年2月26日に内航WGの原田座長（国華産業内航船舶管理部部長代理）の



他、内航WGメンバー海運会社より栗林氏（日本マリン船舶部船舶課課長）、戸松氏（上野トランステック常務執行役員）が静岡市清水区の同機構本部を訪問、Web会議システムを通じて各校の先生方に説明を行った。

左より国華産業 原田座長、日本マリン 栗林氏、上野トランステック戸松氏

勉強会では、まず、原田座長より内航船員の現状も含めた内航海運の概況について各種データを交えた説明に続き、ケミカルタンカーの荷役実務について、次に栗林氏より RORO 船の荷役実務について、最後に戸松氏より小型ケミカルタンカー電気推進船の概要と省エネへの取り組みについて、また各社新人船員教育についてそれぞれ説明がなされた。

説明後、各校との活発な質疑応答、意見交換が行われ勉強会は終了した。今回の勉強会について、参加各校からは、「普段得られない内航船の荷役実務の情報や電気推進船の概要など学生指導にフィードバックしたい」等、高い評価を得た他、今後も同様の勉強会を開催してほしいとの要望が寄せられた。

当協会は、来年度以降もこの勉強会を継続して開催していく。



各校の質問に答える原田座長